

下湯田兵六踊



この「兵六踊」は、薩摩川内市湯田町砂岳・永迫地区に伝わる郷土芸能である。

いつの頃から始まったのかわからないが、今から250年くらい前の宝暦の頃からと言われている。

大石兵六夢物語を演劇化したもので、下湯田の郷中踊りとして五穀豊穡と郷土の繁栄を祈って踊られるユーモラスな踊りである。

物語は、一端のオペラ仕立てになっており、一瞬、歌舞伎の稽古の舞台を想像させる。しかも独特の言葉・動作はこっけいで、見るものを大いに笑わせ、楽しませる。この「兵六踊」を演じることで豊穡を祈念し、今日まで古老から青年へと受け継がれてきた。

【主な登場人物】

大石兵六・・・主人公　平田五助・・・二才頭　大川隼之助　大久保彦三
柳の下どじょうの助　栗の下イガヨン　丹古山修佐エ門　桃井　二才中・・・多数
狐の化身（爺さん・鬼人・ガネ・和尚・小僧・庄屋・家来・姉娘・妹娘）

【一幕】

吉野の原の中ほどに、狐・狸など異形類の化け物が往来の人をたぶらかし、坊主にするという話。そこで二才頭の五助が行こうとするが、占いで凶と出る。そこで遅れてやってきた小二才の兵六が、化け物退治に行くと言うが、他の二才中たちに笑い者にされる。さらに坊主になって帰ったなら「たったひとつの首を渡すよー」といきがり、化け物退治に行くことになった。

【二幕】

化け物退治に一人向かった兵六は、狐を捕まえるが、狐が化けた爺さんに騙され逃がしてしまう。更に狐が化けた嫁ごを取り押さえるが、狐の庄屋に縄をかけられ、とうとう狐の小僧に「まげ」を落とされ、坊主にされてしまう。しかし遂には狐を捕まえ村へと向かう。

【三幕】

兵六は、皆に吉野の道は恐かったと言う。そこで兵六の頭に灯をかざすと見事な坊主になっていた。坊主になる、ならないの賭けには負けたが、見事化け物を退治した兵六は自慢げに話し、一躍村の英雄となる。

【奉納・披露】

日程：未定

場所：未定